

令和3年決算特別委員会 局別審査(第2分科会)

環境局 「ひまわり収集」の更なる拡充について



住本 質問 高齢者や障がい者等へのごみ出し支援として「ひまわり収集」を行なっているが、利用要件を緩和したことで、利用件数も増えている。更なる高齢者増加に伴い、このような地域連携の取り組みは重要性を増している。限られた職員でゴミ収集を安定的に実施していくためには、民間に任せられる業務は民間活力を導入して効率化を図るとともに、市職員は地域連携などを強化して、役割を明確化した働き方にするべきでは。

浜本 副局長

社会課題などの時代に応じた市職員の対応や体制が必要と感じている。そして福祉との連携は市の職員がやるべき分野と思っている。それ以外でもごみ収集車は街中を常時走行しているので、救命活動士の研修などの資格取得も9割以上の者がしている。救急インストラクターなどの難しい資格も1割の者が取得している。今後は、地域の高齢化社会を反映したごみ収集とかの処理業務、公の果たすべき役割の変化に応じての再構築をしていきたい。

住本 要望

現在行われている「ひまわり収集」をさらに一歩踏み込んで、他都市でも行なっているように、ごみ収集時に一声かける「声かけふれあい収集」ができれば更なる福祉の連携につながると考える。今後も官民との業務の明確化を進めて頂きたい。

Check!

ひまわり収集: ごみ出し困難な方を対象とした、玄関先までごみ収集に行くというサービス



建設局 公園緑地の計画的な更新について

住本 質問

市民にとって身近な公園では、老朽化した遊具を新しいものに更新するだけでは画一的な遊具が整備された魅力のない公園となる。時代を見据えた公園にするためには、魅力ある遊具にリノベーションする必要があると考える。今後はどのように魅力ある遊具に更新するか計画を伺いたい。

広瀬 担当局長

現在、公園のリノベーションを進めている中で、子どもの遊び場拠点では、画一的な遊具ではなく、シンボルとなるような大型総合遊具や、子どもがわくわくするような遊具等を整備することで公園機能を高めることに取り組んでいる。

例えば、兵庫区の湊川公園にふわふわドームを設置したり、東灘区の御影公園では年齢や身体体力に関わらず全ての子どもが楽しめるインクルーシブ遊具を整備予定している。またそれ以外の公園でも須磨区天井川公園では地域のシンボルとなっていたカエル型の大型総合遊具をカエルデザインを活かした新しい魅力ある遊具に整備した。今後も地域の意見を聞きながら機能やデザインの異なる魅力ある遊具への更新を進めていきたい。

住本 要望

最近の利用者とか遊び方も多様化しており、東京オリンピックを契機にスケボー等の人気も高まっている。今後はスケボー、BMX、バスケットボールなどの都市型スポーツが行える「アーバンスポーツ構想」も検討して頂きたい。



▲天井川公園のカエル型遊具



令和3年9月24日
令和2年度決算総括質疑

本会議場にて会派を代表して質疑を行いました

神戸市会HPで録画中継が視聴できます

Q2 神戸市看護大学のあり方について

住本 質問

神戸市看護大学は、看護師の養成機関であるべきと考えるが、現状の看護大学は市内の他の看護系大学に対して競争率で負けてしまっている(今年度前期入試1.9倍)。また、卒業生の市内就職率(43人46%)も低く、市税を投入している大学から他都市に看護師が流失していることは非常に問題があると思う。市内就職率が7、8割になるように取り組みを強化するべきではないか。選ばれる大学となるよう今後はどうするのか。

小原 副市長

2021年度はコロナの影響で市外からの志願者が減少して倍率が低下したものと考える。大学では受験生の多い高校等の進学担当教員への訪問、PR活動をさらに強化すると共に、新たに設置した広報戦略室においてホームページの充実など戦略的な広報に努めている。一方で、卒業生の市内就職率向上については、市内の民間病院等と連携を強化し実習の受入先の拡大、合同説明会開催などを通じて市内就職先の選択肢を広げていく。今後も神戸市が設立する大学として、より多くの受験生に選んでもらえるよう、また1人でも多く市内就職いただけるよう取り組んでいきたい。

Q3 適切な財政運営について

住本 質問

神戸市は新型コロナウイルス感染症対策のための財源対策として財政調整基金(注1)を取り崩したことにより令和2年度末の残高は83億円まで減少した。今後、将来の不測の事態に対応するため、新型コロナウイルスが出現する前の水準である120億円程度を目指したいとのことだが、自主財源(注2)が減少している中での今後の具体的な手法、期限についてどう考えているのか。

久元 市長

これまでの震災などの経験を踏まえ、突発的な自然災害時の財政出動をするため、財政調整基金の着実な調整に努め、近年では約120億円規模を維持してきた。長期化するコロナ禍においては、個人市民税、法人市民税などの減収見込みも不透明であり、財政の展望を見通し難い状況である。現時点では、120億円回復を前提に来年度予算を編成するのは困難である。今後は行財政改革方針2025(注3)の取り組みをはじめ、適切な予算執行に努め、早期にコロナ禍以前の水準に回復できるよう予算執行に努めていきたいと考える。

住本 再質問

自主財源が減少しており、一気に基金を増やすのは難しい。自主財源の確保としては、税収増の他には、事業の見直し、遊休資産の売却、債権管理を確実に実施することが必要である。「内部統制評価報告書」によると、「債権管理の意識が希薄な所属が見受けられる」とある。今後の税収増が見込まれない中、債権回収を着実に進めていく必要があると考えるが。

今西 副市長

そのような意見が記載されたことは大変残念で、大変申し訳ないことだと思っている。そのような指摘はもう看過できないことなので、早急に改めることが必要である。債権管理台帳の整備、交渉経緯や納付記録の徹底など、全庁的に債権に関するものについてはできるだけ早くチェックを行い、適正な債権管理の下で債権回収を着実に進めていく。

住本 要望

神戸市の約188億5千万円ある債権は、国保や市税などの滞納で生じている。市民負担の公平性を確保するためには、「神戸市債権管理に関する条例」の事務処理手順に沿って業務を実行し、着実な債権回収を行い歳入確保に努めていただきたい。

Check!

注1 地方公共団体が年度間の財源変動に備えて積み立てる資金。財政に余裕がある年度に積み立て、災害など必要やむを得ない理由で財源不足が生じた年に活用する。

注2 市民税などの地方税の他、使用料、手数料、分担金、寄附金、財産収入、収益事業収入など自治体が自ら徴収できる財源のこと。

注3 今後、神戸市の行財政運営が厳しくなる中で「スマート自治体」を目指した今後5年間の行政・財政運営の方向性を策定したもの。

●市民の皆さまからのご意見・ご感想をお待ちしております

公式サイト <http://www.k-sumi.jp>

E-Mail suma@k-sumi.jp

●発行:日本維新の会 神戸市議員団
〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号1号館29階
TEL: 078-322-0185 FAX: 078-322-0184

神戸市須磨区支部
〒654-0051 神戸市須磨区月見山本町2丁目6番15号
TEL: 078-735-8231 FAX: 078-735-8231

住本かずのり Facebook

住本かずのり 検索

住本かずのり(須磨区選出)

市政相談受付中

